

子どもたちの学力・体力を伸ばし、心を豊かにするための基盤は学級づくりです。学級の児童生徒の人間関係や、学級の生活の中に生まれる問題に対する自力解決の様子はいかがですか。10月はじっくりと学習活動に取り組みする時期でもあります。改めて、児童生徒の理解に努め、学級づくりを充実したものにしていきましょう。



<小学校>

児童の困難さに寄り添う学級づくり  
～集会に参加するのが苦手な子への支援～

集会で自分のクラスの列に座っていることができずに、ふらふらと歩き回ったり、床に寝そべったりしている子どもに対して、皆さんは、どのような支援をしますか。



「困っているのかもしれない」という視点でその行動の要因を考えてみましょう

- 例)・隣の人との距離が近くて不快に感じている?  
・話の途中で気持ちがそれて、話が分からない?

その子の「困った」を解決する支援や配慮を考え、実践してみましょう

- 例)・列の間を広くとる。席を列の端にする。  
・絵や写真を使い、分かりやすく端的に話す。  
・座布団を用意する。姿勢が崩れても目立ちにくい。

子どもの行動からその子の「困った」に気付くことが、子どもに寄り添う支援の第一歩です。

学級活動を通して、みんなで高め合う!  
家庭学習大作戦!!



家で学習する意欲が湧かない。  
自主学習で何をやったらいいかわからない。

このような児童のために、次のような4つの段階で学級活動を行ってみませんか。友の取組を参考にしながら、家庭学習の目標や方法を意思決定していくことで、自己指導力を高めます。

つかむ	アンケートをもとに、学級全体と自分との取組の実態を比較します。
さぐる	グループで、家庭学習の取組について悩みや工夫を紹介し合います。
見付ける	学級全体で、それぞれの取組のよさについて話し合います。
決める	自分の家庭学習の目標や方法を具体的に決め出します。

定期的に振り返りの時間を設け、実践意欲の継続化を図りましょう!



<中学校>

その子の「困難さ」に寄り添う手立て

～Nさんの姿～

移動や片付けなど、行動への取りかかりが遅れてしまい、友だちから心配してもらおうことの多いNさん。



Nさんは、「2時間目の体育の授業に間に合うように準備する」、「授業後に使用したものを整理して片付ける」など、見通しをもって行動することへの苦手がたまずきの要因であったと考えられます。

【見通しをもちやすくするために…】

- ・「1時間目の授業が終わったら運動着に着替える」、「体育館に移動する」等、Nさん用のスケジュール表を提示することも有効です。

【指示は曖昧でなく具体的に…】

- ・普段何気なく使う「片付けて」。実は、とても曖昧な指示です。「教科書を引き出しにしまう」のように、何をどこにどうするのか具体的に伝えましょう。

テスト勉強の工夫を見出す授業

「自分にはどんな勉強のやり方が合っているのだろうか」…生徒たちが勉強への悩みを仲間に語りながら、自分に合ったやり方を考えていく授業を次のように構想しました。

- ①配られた3枚の付箋紙に、テスト勉強をする上で困っていることを書く。
- ②生活班で机を組み、順番を決め、付箋紙を出しながら、困っていることを語る。
- ③グループ内で、自分はこうしているといった経験を発表し合う。悩みに共感した人は、その気持ちを伝える。
- ④発言ができれば、悩みの発表者は、今の気持ちを発表する。



生徒たちは、悩みを書くことで、自己課題を意識したり、自己理解を深めたりしながら、自分に合った工夫を見つけていきました。また、友との対話を通して、悩んでいるのは自分だけではないことに気付き、皆で一緒に頑張ろうという気持ちがクラス内に広がっていきました。